

地政学的リスクが、買いの材料になる

禁断の投資術 「有事に強い」戦争銘柄⑨



ステルス戦闘機(F-15)とホルムズ海峡を通る原油タンカー(F)

【億り人らが厳選】

トランプ米大統領によるイランへの攻撃は、世界経済にも混乱をもたらした。原油価格は乱高下し、世界の株式市場にも大きな影響を与えている。予測のつかない有事に、個人投資家はどうか備え、どう対応すればいいのか。戦争にも負けない「禁断の投資術」を紹介する。

中東で次なる衝突がいっつきるか、依然不透明なままだ。株式市場も先行きの見通せない展開が続く。特に中東情勢の不安が加速すると、想起される

のが原油価格の急騰だろう。物価高に追い打ちをかける原油高は、日本でも生活コスト上昇に直結する。その一方で、そうした事態が追い風となる日本株の銘柄もある。

代表格が、原油・ガス開発で国内最大手のIHP EXだ。同社は原油高が業績拡大につながるため、イランへの攻撃後に原油価格が高騰した23日には株価が急騰。停戦合意公表を受けた24日には急落したが、有事の際に上昇する銘柄であることが改めて証明された格好だ。

資産8億円の「億り人」のかんち氏はこう指摘する。

「同社は政府が黄金株を保有する国策会社なので、潰れるリスクは極めて小さい。少なくとも減配はしない累進配当を打ち出しているため、高配当株として安心感も高い。マレーシアの銀行代表の岡田憲史氏も「停戦合意発表があったとはいえず、まだまだ何が起きるかわからない」としたうえで

こう語る。

「IHP EXは原油価格が1ドル上昇すると純利益が60億円程度押し上げられるとされ、原油高の恩恵を最も直接的に受ける銘柄です。ほかにも原油高メリットを受けるエネルギー関連銘柄として、中東でのLNG・石油プラント建設に強みを持つ日揮ホールディングスなども注目でしょう」

「AIや量子技術」
「新防衛銘柄」も物色され始めた!

それは今後何年にもわたる話なので、三菱重工、IHIに川崎重工業を加えた「重工三兄弟」は注目しておくべきです」

防衛関連銘柄には中長期的な追い風になるとの見立てである。そして、岡山、藤井両氏が注目するのが、近年

の戦争で存在感が高まっている最新技術。岡山氏は「AIや量子技術を活用した、新型防衛関連銘柄も物色され始めてい

る」として、PKSHA Technologyを挙げる。「同社が開発する自然言語処理や画像認識などのAIアルゴリズムは防衛・

ドローン関連銘柄も

藤井氏は、主力兵器となりつつある「ドローン」関連銘柄を挙げる。

「戦争のみならず、地震やゲリラ豪雨といった自然災害も含めてさまざまなリスクに対応するドローンの役割は高まる一方、産業用ドローンで測量・点検するほか、欧米でドローン運行管理システムを運用するTerra Drone、原発でも採用される屋内専用の小型ドローンを手がけるLiberawareなどは、災害大国ニッポンでも今後活躍する余地は大きい」

中東をはじめ世界情勢が先行き不透明ななか、藤井氏は「平時に安く仕込んで、有事の高値で売

監視用途への応用が期待されています。ほかにも量子コンピュータや船舶用電子機器といった関連分野にも注目していると考えています」

「投資術を紹介する。ホルムズ海峡封鎖の可能性が高まれば、物流網のリスクが増加します。需要が減っても運賃は急上昇するので海運株に期待する動きが高まります。そこで共栄タンカーなどは大手と違って、材料株として一気に買われやすい。実際、イラン攻撃のあった23日には年初来高値をつけたほど急騰し、停戦が伝わった24日には一転して急落しました。そうした値動きを踏まえて考えれば、平時に安く仕込んでおいて有事の高値で売れる可能性もあるわけです」

株式投資によって何かあった時に備える、という選択もあるのだ。

億り人たちが選ぶ「有事」に強い! 注目⑨銘柄

企業名(市場 証券コード)	株価	注目ポイント
INPEX (東証プライム・1605)	2003円	原油・ガス開発生産で国内最大手。原油価格が1ドル上昇するごとに利益が60億円程度押し上げられる原油高メリットを享受できる。
日揮ホールディングス (東証プライム・1963)	1214.5円	世界各地で石油、化学、発電、LNG関連プラントを建設する総合エンジニアリング国内首位。中東でのプラント建設に強み。
Liberaware (東証グロース・218A)	1593円	原発でも採用される屋内専用の狭小空間点検ドローンの販売・レンタル、画像データの解析・加工を手がける。赤字だが、増収基調が続く。
Terra Drone (東証グロース・278A)	5120円	産業用ドローンで測量・点検ソリューションなどを提供し、ドローンの運行管理システムを欧米で運用する。海外売上高比率は50%超。
PKSHA Technology (東証プライム・3993)	3540円	AIベンチャーで自然言語処理や画像認識などのAIアルゴリズムを開発。防衛・監視用途への応用が期待され、新型防衛関連銘柄として注目。
三菱重工業 (東証プライム・7011)	3447円	総合重機最大手。航空・宇宙・造船・防衛産業に注力し、次世代戦闘機やミサイル、潜水艦などを手がける防衛関連銘柄の代表格。
川崎重工業 (東証プライム・7012)	1万0450円	総合重機大手で、旅客機分担品や鉄道車両、大型2輪などのほか、自衛隊の潜水艦や航空機も手がける。今期も増収増益を見込む。
IHI (東証プライム・7013)	1万5390円	総合重機大手で、航空エンジンで首位。艦艇用エンジンや大型ボイラー、ターボチャージャーにも強みを持つ。増収増益が続く見通し。
共栄タンカー (東証スタンダード・9130)	1049円	ホルムズ海峡がルートとなる大型原油タンカーが主体の外航海運会社。有事の際、航路の海上運賃上昇への期待から買われることが多い。

※企業名は証券コード順に並べた。株価は6月24日終値(単元株数はいずれも100株)。